

## 情報提供（1）資料

やまなし生物多様性地域戦略  
における点検評価結果について

自然共生推進課

# やまなし生物多様性地域戦略における点検評価結果について

## 1 戦略の概要

### (1) 経緯・目標

本県の生物の多様性の保全及び持続可能な利用を総合的かつ計画的に推進するため、令和6年3月に「やまなし生物多様性地域戦略」を策定。

本戦略では、目指すべき山梨のすがたとして、「生物多様性の保全と持続可能な利用の両立 ～自然と共生し自然の恵みの豊かさを実感できるやまなし～」を目標に掲げ、その実現を図る。

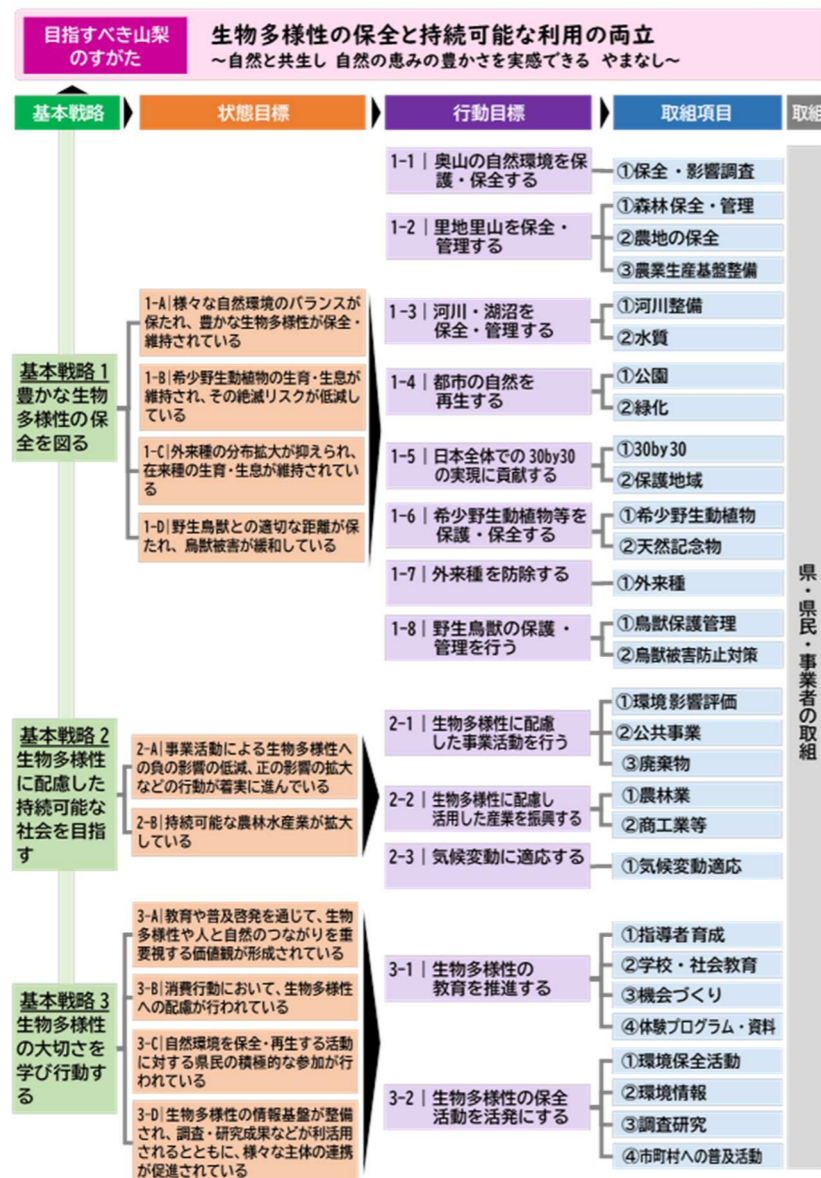
### (2) 戦略の期間・位置づけ

期間：令和6(2024)年度～令和12(2030)年度の7年間

位置づけ：「生物多様性基本法」第13条に基づく生物多様性地域戦略であるとともに山梨県環境基本計画の下位計画として位置づけ

### (3) 戦略の体系

目指すべき山梨のすがたを実現するため、3つの基本戦略を掲げ、基本戦略ごとの状態目標、行動目標等を設定。



## 2 戦略の進行管理

本戦略を推進するため、「状態目標」及び「行動目標」として設定した指標と数値目標、取組の実施状況の把握により点検・評価を行い、毎年度の点検評価の結果を公表することとしている。令和6年度の結果は次のとおり。

### (1) 指標の評価方法

評価 (年度目標達成率評価)	年度目標達成率計算式
【S】 年度目標達成率 100%以上	①基準値から数値を上下させる目標 (現況値-基準値) / (年度目標値-基準値) × 100
【A】 80%以上 100%未満	②基準値を維持する目標 (現況値) / (目標値) × 100
【B】 60%以上 80%未満	
【C】 60%未満	

### (2) 結果の概要

目標の設定がある31項目のうち、年度目標達成率100%以上の【S】評価が14項目(45%)、達成率80%以上の【A】評価が1項目(3%)、達成率60%以上の【B】評価が4項目(13%)で、全体の61%が概ね順調に進捗している。

### (3) 指標の動向

「基本戦略1 豊かな生物多様性の保全を図る」に係る目標(希少野生動植物の生育・生息の維持、里地里山の保全・管理、河川・湖沼の保管理等)と「基本戦略2 生物多様性に配慮した持続可能な社会を目指す」に係る目標(持続可能な農林水産業の拡大、生物多様性に配慮し活用した産業の振興等)は、【S】評価の割合が多く、県が主体となり取り組む施策は、概ね順調に進捗している。

一方、「基本戦略3 生物多様性の大切さを学び行動する」に係る目標(生物多様性の認知度、生物多様性を対象とした保全活動の参加の割合等)は、【C】評価の割合が多く、県から、県民や事業者等の各主体に対する普及啓発や行動に繋げるための機会づくりが十分に図られていないことが一因と考えられる。このため、より効果的な情報発信や広報手法の工夫を通じて、理解と協力の促進に努めていく。

区分	指標数				計	指標割合
	S	A	B	C		
基本戦略1 豊かな生物多様性の保全を図る	8	1	2	4	15	
	53%	7%	13%	27%	100%	
基本戦略2 生物多様性に配慮した持続可能な社会を目指す	4	0	1	0	5	
	80%	0%	20%	0%	100%	
基本戦略3 生物多様性の大切さを学び行動する	2	0	1	8	11	
	18%	0%	9%	73%	100%	
合計	14	1	4	12	31	
	45%	3%	13%	39%	100%	

【評価・分類方法】 年度目標値に対する達成状況を次のとおり評価して分類

- S 年度目標達成
- A 達成率80%以上
- B 達成率60%以上
- C 達成率60%未満

# やまなし生物多様性地域戦略における点検評価結果（令和6年度）

【達成率の算出方法】基準値から数値を上下させる目標：計算式①(現況値-基準値)/(年度目標値-基準値)×100  
 基準値を維持する目標：計算式②(現況値)/(目標値)×100

基本戦略1 豊かな生物多様性の保全を図る										
状態目標										
No.	状態目標	指標	基準値 (基準年度R4)	目標値 (目標年度R12)	現況値 (R6年度)	年度目標値 (R6年度)	達成率 (年度目標比)	年度目標達成率評価	現況及びその原因	見直し・改善対応策 (年度目標値未達成の場合)
1-A	様々な自然環境のバランスが保たれ、豊かな生物多様性が保全・維持されている	県の総面積に対する保護地域及びOECMの面積割合	31%	50%	31%	36%	0%	C	OECMの登録制度（自然共生サイトへの認定制度）は、令和7年4月から新たな制度へ移行することが以前から周知されており、その開始を待つ形で対応が保留されていた可能性がある。	・民間事業者等を対象としたOECMの登録を促すセミナーの開催 ・民間事業者等がOECMの登録を支援する専門家を招聘する際、その費用を助成する制度を新たに創設
1-B	希少野生動植物の生育・生息が維持され、その絶滅リスクが低減している	根レッドデータブック掲載絶滅危惧種の絶滅リスクの維持または低減（501種のうち、絶滅リスクを示すカテゴリーが根レッドデータブック見直し時に低くなることによる評価）	—	絶滅リスクが維持または低減している	—	モニタリング調査で維持状況を確認	—	S	地球温暖化やニホンジカの高山帯への進出など、希少野生動植物の生育・生息環境について、変化が生じてきている。	—
1-C	外来種の分布拡大が抑えられ、在来種の生育・生息が維持されている	新たな侵略的外来種の封じ込め率	—	100%	100%	100%	100%	S	※計算式② 新たな侵略的外来種の分布拡大は確認されていない。	—
1-D	野生鳥獣との適切な距離が保たれ、鳥獣被害が緩和している	ニホンジカ推定生息数（陸層ベイズ法による中央値）	41,885頭	17,000頭	49,184頭	32,054頭	-74%	C	・毎年度実施する推定生息数モニタリング調査において、現在の推定生息数に併せて過去の推定生息数も毎年度見直されるため、推定生息数が増加しているように見受けられてしまう。 ・しかし、実際は、捕獲目標も近年継続して達成している。	年間の捕獲目標頭数（16,000頭）について、令和7年度は2,000頭増やし、18,000頭に見直し
		野生鳥獣による農作物被害金額	140百万円	123百万円 (目標年度R8)	129百万円	132百万円	138%	S	R6年度現況値はR5年度実績より約1千万円減となったが、被害金額は未だ大きく、引き続き地域ぐるみの対策を進める必要がある。	—
行動目標										
No.	行動目標	指標	基準値 (基準年度R4)	目標値 (目標年度R12)	現況値 (R6年度)	年度目標値 (R6年度)	達成率 (年度目標比)	年度目標達成率評価	現況及びその原因	見直し・改善対応策 (年度目標値未達成の場合)
1-2	里地里山を保全・管理する	森林整備の実施面積	6,400ha/年	7,300ha/年 (目標年度R11) （「やまなし森林整備・林業成長産業化推進プラン」）	6,601ha/年	6,657ha/年	78%	B	地球温暖化の防止、水源の涵養等の森林の多面的機能の持続的発揮のため、植栽・保育・間伐等の森林整備・保全への支援を積極的に行い、目標面積とはほぼ同程度（99.2%）の森林整備を実施した。	森林の有する公益的機能を持続的に発揮していくための取組を着実に進めていく。
		多面的機能の保全管理に取り組む面積	7,508ha	7,600ha (目標年度R8)	7,486ha	7,553ha	-49%	C	令和6年度は、「農村地域への産業の導入の促進等に関する法律」における産業導入等による農地転用によりやむを得ず面積が減少したが、令和7年度は、市町村と連携し取組を開始する組織を支援することで面積が増加した。引き続き、本県において多面的機能の維持・発揮を図るに拡大していくための事業の推進を図る。	組織が共同した取組活動を継続するため、引き続き活動組織の広域化を推進するとともに、高齢化等に伴う地域の人材不足への対応や活動内容の発展に向け、活動組織と外部団体（企業、大学等）をつなぐマッチングシステムの運用に取り組む。
1-3	河川・湖沼を保全・管理する	身近な自然環境や動植物の生息・生育・繁殖環境に配慮した河川整備計画における河川整備率	61.8%	70.5% (目標年度R9)	65.4%	65.1%	109%	S	年度目標値を達成	—
		水質汚濁環境基準達成率（河川）（BOD）	22地点（22地点中）	22地点（22地点中）	22地点（22地点中）	22地点（22地点中）	100%	S	※計算式② 年度目標値を達成	—
		水質汚濁環境基準達成率（湖沼）（COD）	5地点（5地点中）	5地点（5地点中）	4地点（5地点中）	5地点（5地点中）	80%	A	※計算式② 令和6年度は精進湖湖心において環境基準を達成できなかった。近年の精進湖の水質は、環境基準値付近で、概ね横ばいで推移している。水質汚濁の原因は、生活排水や事業場などの特定汚染源、農地、山林等の非特定汚染源の他、植物プランクトンの増殖などの内部生産や底泥からの汚濁物質の溶出などによる内部的な汚濁要因が推測される。	事業場に対する監視及び指導、生活排水処理施設の適正な維持管理に係る普及啓発を進めるとともに、水質調査を継続して実施することにより、水質の監視及び水質汚濁原因の解明に取り組んでいく。
生活排水クリーン処理率	86.3%	92.2%	87.6%	88.2%	68%	B	集合処理施設の整備事業費の減少に伴い、生活排水処理施設の整備が計画どおりに進まなかった。	下水道区域を縮小し浄化槽の整備を進めるなど、事業の効率化を図りつつ未整備区域の早期解消を推進していく。		
1-5	日本全体での30by30の実現に貢献する	生物多様性のための30by30アライアンスへの参加数	4件 (基準年度R5)	150件	8件	25件	19%	C	30by30アライアンスへの主な参加対象となるOECM（自然共生サイト）登録団体等が、少数にとどまっている状況	・民間事業者等を対象としたOECMの登録を促すセミナーの開催（セミナーにおいて、30by30アライアンスの周知・参加呼びかけも実施） ・民間事業者等がOECMの登録を支援する専門家を招聘する際、その費用を助成する制度を新たに創設
1-6	希少野生動植物等を保護・保全する	国・県指定天然記念物数	140件	基準値の維持または増	140件	—	100%	S	令和6年度末時点では目標値140件を維持	—
		県条例自然記念物数	38件	基準値の維持または増	38件	—	100%	S	指定種38件を維持	—
1-8	野生鳥獣の保護・管理を行う	第二種特定鳥獣管理計画の目標達成割合（ニホンジカ）	102%	100%の維持	114%	100%	114%	S	年度目標値を達成	—

基本戦略2 生物多様性に配慮した持続可能な社会を目指す

状態目標

No.	状態目標	指標	基準値 (基準年度R4)	目標値 (目標年度R12)	現況値 (R6年度)	年度目標値 (R6年度)	達成率(年度目 標比)	年度目標達 成率評価	現況及びその原因	見直し・改善対応策 (年度目標値未達成の場合)
2-A	事業活動による生物多様性への負の影響の低減、正の影響の拡大などの行動が着実に進んでいる	自然共生サイト登録事業者・団体数	1団体 (基準年度R5)	28団体	4団体	5団体	75%	B	0ECMの登録制度(自然共生サイトへの認定制度)は、令和7年4月から新たな制度へ移行することが以前から周知されており、その開始を待つ形で対応が保留されていた可能性がある。	・民間事業者等を対象とした0ECMの登録を促すセミナーの開催 ・民間事業者等が0ECMの登録を支援する専門家を招聘する際、その費用を助成する制度を新たに創設
2-B	持続可能な農林水産業が拡大している	FSC®森林認証面積の維持による森林管理	144千ha	144千ha	144千ha	144千ha	100%	S	—	—

行動目標

No.	行動目標	指標	基準値 (基準年度R4)	目標値 (目標年度R12)	現況値 (R6年度)	年度目標値 (R6年度)	達成率(年度目 標比)	年度目標達 成率評価	現況及びその原因	見直し・改善対応策 (年度目標値未達成の場合)
2-2	生物多様性に配慮し活用した産業を振興する	木質バイオマス燃料用木材供給量	88千m <sup>3</sup>	122千m <sup>3</sup> (目標年度R11)	115千m <sup>3</sup>	98千m <sup>3</sup>	270%	S	現況については、県内で大型バイオマス発電所が稼働していることもあり、令和6年度目標値を上回る数値で推移しており、概ね順調である。	—
		有機農業取組面積	247ha	300ha (目標年度R8)	278ha	273ha	119%	S	有機農業(化学合成農薬、化学肥料を使わない栽培を含む)で新規就農する者が毎年一定数いるため、面積は徐々に増加している。	「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律(令和4年法律第37号)」に基づき「山梨県環境負荷低減事業活動の促進に関する基本的な計画」(R5.3.30)を策定し、「やまなし農業基本計画」が目指す施策の方向性を踏まえながら、山梨県における環境と調和した農林水産業の実現を目指す。 また、やまなし農業基本計画を令和6年1月に策定した。
		4パーミル・イニシアチブ取組面積	4,926ha	7,300ha (目標年度R8)	6,359ha	6,113ha	121%	S	水稲農家を中心に認証取得の積極的な働きかけを行った結果、年度目標を上回る成果を得ることができた。	—

基本戦略3 生物多様性の大切さを学び行動する

状態目標

No.	状態目標	指標	基準値 (基準年度R4)	目標値 (目標年度R12)	現況値 (R6年度)	年度目標値 (R6年度)	達成率(年度目標 比)	年度目標達成 率評価	現況及びその原因	見直し・改善対応策 (年度目標値未達成の場合)
3-A	教育や普及啓発を通じて、生物多様性や人と自然のつながりを重要視する価値観が形成されている	「生物多様性」の認知度	74% (基準年度R5)	100%	58%	78%	-400%	C	生物多様性に関する周知が不足している。	ヴァンフォーレ甲府の試合会場や県民の日のイベント等において、やまなし生物多様性地域戦略のパンフレットの配布や生物多様性に関するクイズを実施し、県民への周知を強化する。
		「ネイチャーポジティブ」の言葉の認知度	16% (基準年度R5)	100%	25%	28%	75%	B	令和6年度現況値は25%で年度目標値28%を僅かに下回っている状況。要因は、周知が不足していることや、英語・専門用語の「ネイチャーポジティブ」という言葉だけでは、その概念が伝わりにくいためと考えられる。	イラストの掲載など、視覚的に印象付けられる手法を検討し、イベントでの解説パネルの展示などを行う。生物多様性に係る講座依頼があった際には、「ネイチャーポジティブ」についても分かりやすく触れ認知度向上を図る。
3-B	消費行動において、生物多様性への配慮が行われている	「エコラベルがついた環境に優しい商品を選んで買う」の割合	29% (基準年度R5)	100%	19%	39%	-100%	C	令和6年度現況値は19%で年度目標値39%を下回っており、令和5年度基準値29%よりも低下している。おり、要因は、コロナ禍後の生活スタイルの変化による機会減少、物価高騰による節約優先が考えられる。	環境フォーラムinやまなしの開催や、県民の日のイベントにおける啓発物の配布等により、エコに関する意識の向上を図り行動に繋げる。
3-C	自然環境を保全・再生する活動に対する県民の積極的な参加が行われている	「生物多様性を対象とした保全活動の参加」の割合	57% (基準年度R5)	100%	47%	63%	-167%	C	コロナ禍後の生活スタイルの変化による機会減少、物価高騰による節約優先が考えられる。	セミナー開催、外来種駆除キャンペーンなどで、保全活動参加の推進を図っていく。
3-D	生物多様性の情報基盤が整備され、調査・研究成果などが活用されとともに、様々な主体の連携が促進されている	他の計画の一部を生物多様性地域戦略に位置づけるなどし、生物多様性に関する取組を定めた県内市町村数	0市町村	27市町村	1市町村	6市町村	17%	C	市町村担当者へのアンケート調査の結果、約7割の市町村で策定の必要性はあると考えているものの、主に「人員の不足」「知識・技術の不足」が策定に向けた課題であった。	生物多様性に関する基礎セミナーを開催し、市町村に参加を呼びかける。セミナーに参加することで専門家(講師)や他市町村等との意見交換が行えることのほか、今後の取り組み推進に向けた関係性の構築が待たれる。

行動目標

No.	行動目標	指標	基準値 (基準年度R4)	目標値 (目標年度R12)	現況値 (R6年度)	年度目標値 (R6年度)	達成率(年度目標 比)	年度目標達成 率評価	現況及びその原因	見直し・改善対応策 (年度目標値未達成の場合)
3-1	生物多様性の教育を推進する	環境学習指導者派遣事業実施回数	16回	67回	12回	29回	-31%	C	新型コロナウイルス感染症拡大により講師派遣の要請が減少し、それ以降も増加にまで至っていない。	・関係機関(小学校、NPO法人等)にカリキュラムへの組み込みを依頼する ・イベント等での周知を新たに行う
		生物多様性に関連する講座・イベント等の開催数・参加者数	22,852人	基準値の参加者数の維持	24,884人	—	達成	S	基準値、現況値は、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターの自然体験プログラムの参加者数。コロナ禍後の社会活動再開により人の移動が活発化したものと考えられる。	—
		富士山環境教育参加者数	17,546人	基準値以上の参加者数を旨せず(目標年度までの累計)	2,854人	2,193人	達成	S	コロナ禍の影響が緩和されたことにより富士山環境学習支援事業への参加者数も増加傾向にある。	—
		ユネスコエコパークの認知度(甲武信)	24% (基準年度R5)	50%	26%	28%	50%	C	甲武信ユネスコエコパークの周知が不足している。	ヴァンフォーレ甲府ホームゲーム会場などのイベントにおいて、パンフレットを配布して県民への周知を強化するとともに、エリアの新たな魅力を発信するフォトコンテストや南アルプスユネスコエコパークと連携したイオンモールでのユネスコエコパークフェアの開催により認知度向上を図る。
3-2	生物多様性の保全活動を活発にする	生物多様性に関連する保全活動団体への支援数(希少種)	0件	10件	5件	5件	50%	C	希少種の補助金交付件数は増加しているが、外来種の交付件数は伸びておらず、更なる周知が必要。	・補助金について、市町村や関係団体への周知のほか、市町村を通じて管内自治会等へ周知する。 ・関連するセミナーや講習会等において、参加者に補助金をPRする。
		生物多様性に関連する保全活動団体への支援数(外来種)	1件	10件	1件	3件	—	—	—	—
		富士山科学研究所内の環境情報センター利用者数	4,640人/年	5,000人/年 (目標年度R9)	4,410人/年	4,784人/年	-160%	C	富士山科学研究所として全体的な来館者数が増えてきているとともに、8月あたりに館内見学の団体の受け入れが増加した。また、所内のセミナー等を受講するだけでなく自由見学を行う団体が増えたため結果として情報センター来館者数の増加につながっている。目標値には達成していないものの、前年比+1,000名となった。	・団体貸出の充実と周知…引き続き学校等における富士山学習をサポートすることを目的に情報センターの蔵書を団体向けに貸し出し、それを契機として来館者の増加につなげる。 ・一般利用者に対する積極的な情報発信…ホームページやSNSを通じた情報発信の状況および活動について情報発信を積極的に行うことで、一般での利活用の有用性について周知し、来館者数の増加につなげる。

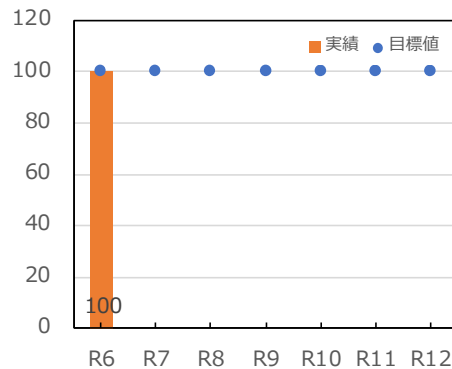
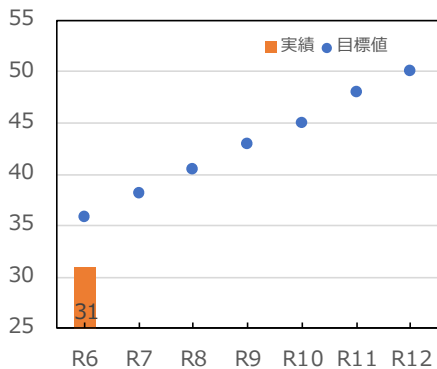
# やまなし生物多様性地域戦略指標の推移

(基準値又は目標値の設定がある指標)

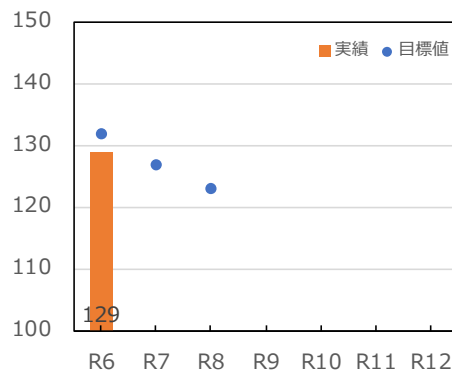
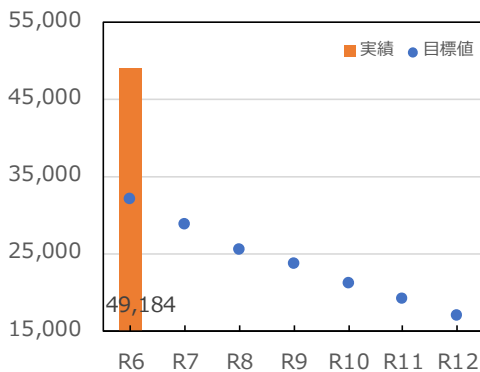
## 基本戦略1 豊かな生物多様性の保全を図る

### 状態目標

指標名	県の総面積に対する保護地域及びOECMの面積割合 (%)							指標名	新たな侵略的外来種の封じ込め率 (%)						
年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12	年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12
値	31	31					50	値	-	100					100



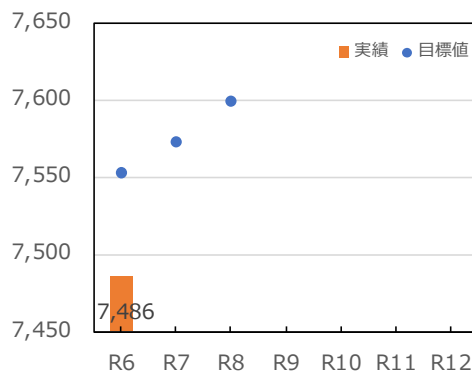
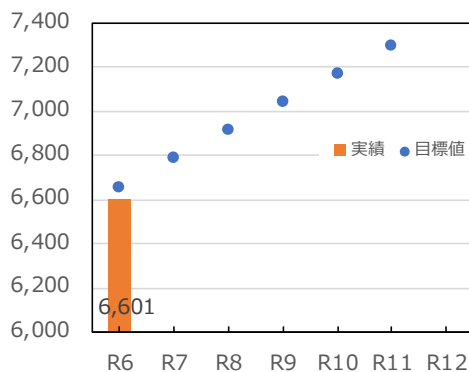
指標名	二ホンジカ推定生息数 (階層ベイズ法による中央値) (頭)							指標名	野生鳥獣による農作物被害金額(百万円)						
年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12	年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R8
値	41,885	49,184					17,000	値	140	129					123



### 行動目標

指標名	森林整備の実施面積 (ha/年)							指標名	多面的機能の保全管理に取り組む面積 (ha)						
年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R11	年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R8
値	6,400	6,601					7,300	値	7,508	7,486					7,600

※目標R11：やまなし森林整備・林業成長産業化推進プラン (R2～R11)



指標名	身近な自然環境や動植物の生息・生育・繁殖環境に配慮した河川整備計画における河川整備率(%)							指標名	水質汚濁環境基準達成率(河川)(BOD)(地点22地点中)						
年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R9	年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12
値	61.8	65.4					70.5	値	22	22					22
指標名	水質汚濁環境基準達成率(湖沼)(COD)(地点5地点中)							指標名	生活排水クリーン処理率(%)						
年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12	年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12
値	5	4					5	値	86.3	87.6					92.2
指標名	生物多様性のための30by30アライアンスへの参加数(件)							指標名	国・県指定天然記念物数(件)						
年度	基準R5	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12	年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12
値	4	8					150	値	140	140					維持又は増

指標名 県条例自然記念物数(件)							指標名 第二種特定鳥獣管理計画の目標達成割合(ニホンジカ) (%)								
年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12	年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12
値	38	38					維持又は増	値	102	114					100%の維持

県条例自然記念物数(件)の推移。R6年度の実績は38件。

第二種特定鳥獣管理計画の目標達成割合(ニホンジカ) (%)の推移。R6年度の実績は114%、R7年度以降は100%の維持。

## 基本戦略2 生物多様性に配慮した持続可能な社会を目指す

### 状態目標

指標名 自然共生サイト登録事業者・団体数(団体)							指標名 FSC®森林認証面積の維持による森林管理(千ha)								
年度	基準R5	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12	年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12
値	1	4					28	値	144	144					144

自然共生サイト登録事業者・団体数(団体)の推移。R6年度の実績は4団体、R7年度以降は目標値に近づいている。

FSC®森林認証面積の維持による森林管理(千ha)の推移。R6年度の実績は144千ha、R7年度以降は目標値に近づいている。

### 行動目標

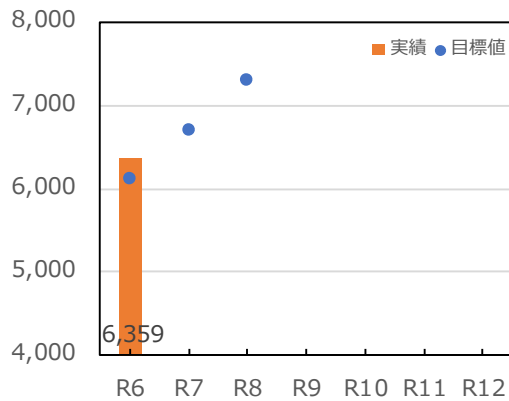
指標名 木質バイオマス燃料用木材供給量(千m <sup>3</sup> )							指標名 有機農業取組面積(ha)								
年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R11	年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R8
値	88	115					122	値	247	278					300

木質バイオマス燃料用木材供給量(千m<sup>3</sup>)の推移。R6年度の実績は115千m<sup>3</sup>、R7年度以降は目標値に近づいている。

有機農業取組面積(ha)の推移。R6年度の実績は278ha、R7年度以降は目標値に近づいている。

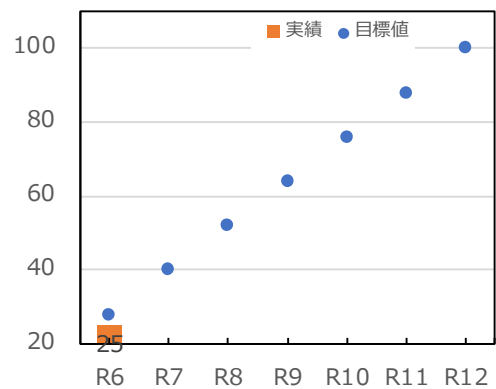
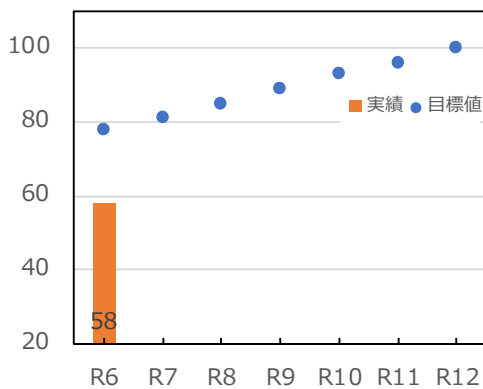
指標名	4 パーミル・イニシアチブ取組面積(ha)						
年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R8
値	4,926	6,359					7,300



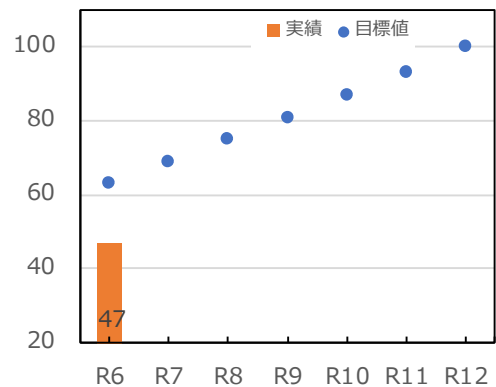
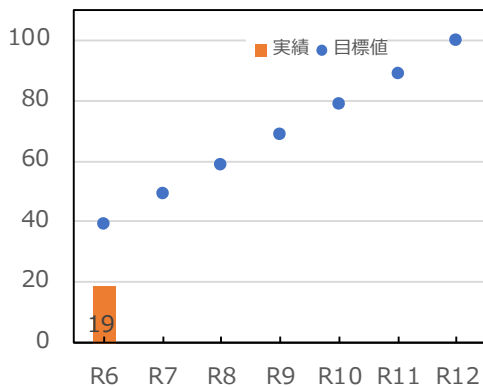
### 基本戦略3 生物多様性の大切さを学び行動する

#### 状態目標

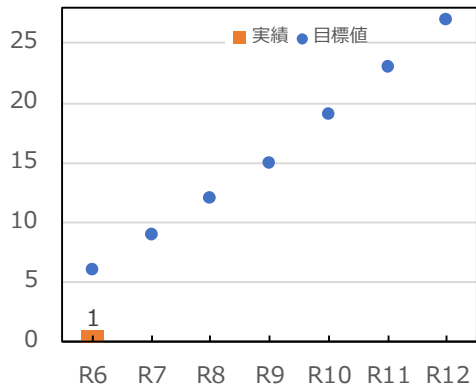
指標名	「生物多様性」の認知度(%)							指標名	「ネイチャーポジティブ」の言葉の認知度(%)						
年度	基準R5	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12	年度	基準R5	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12
値	74	58					100	値	16	25					100



指標名	「エコラベルがついた環境に優しい商品を選んで買う」の割合(%)							指標名	「生物多様性を対象とした保全活動の参加」の割合(%)						
年度	基準R5	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12	年度	基準R5	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12
値	29	19					100	値	57	47					100

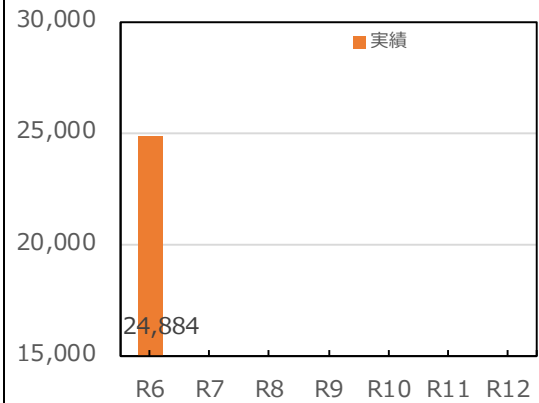
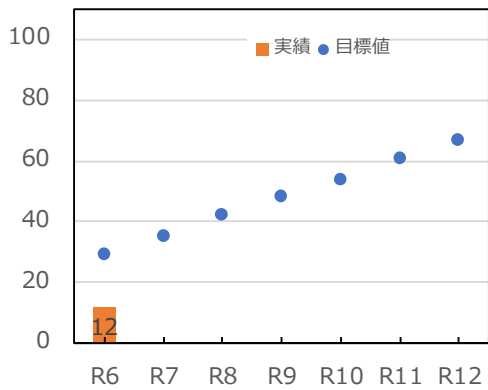


指標名	他の計画の一部を生物多様性地域戦略に位置づけるなどし、生物多様性に関する取組を定めた県内市町村数						
年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12
値	0	1					27



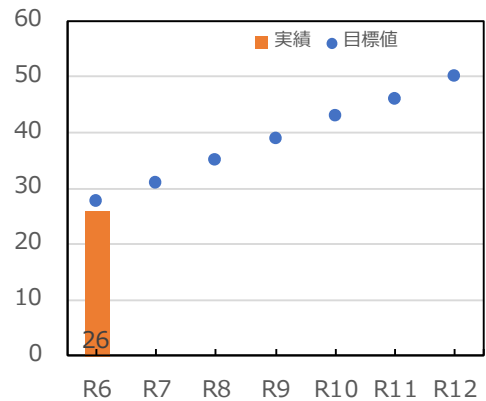
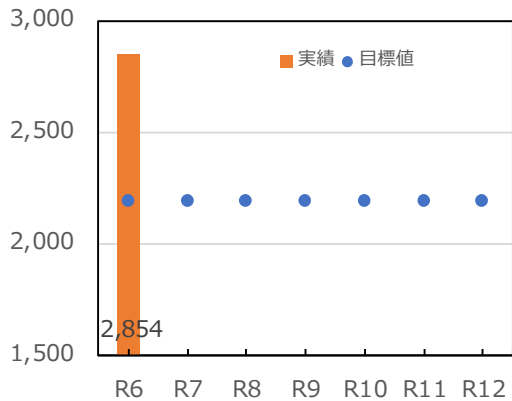
### 行動目標

指標名	環境学習指導者派遣事業実施回数(回/年)							指標名	生物多様性に関連する講座・イベント等の開催数・参加者数(人)						
年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12	年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12
値	16	12					67	値	22,852	24,884					維持

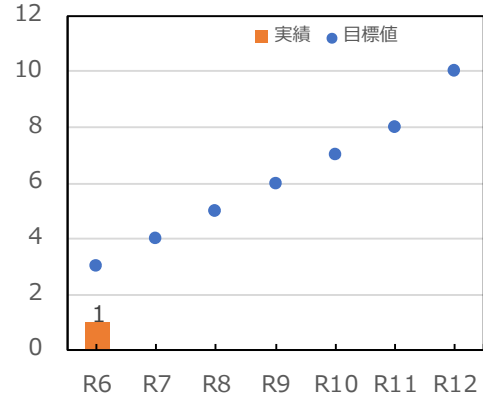
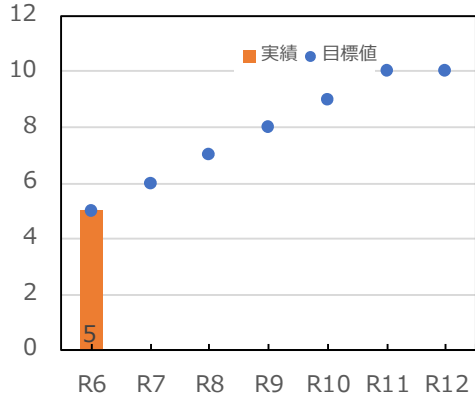


指標名	富士山環境教育参加者数(人)							指標名	ユネスコエコパークの認知度(%)						
年度	基準値	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12	年度	基準R5	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12
値	17,546	2,854					※	値	24(甲武信)	26(甲武信)					50

※R5年度～R12年度までの累計で基準値以上の参加者数



指標名	生物多様性に関連する保全活動団体への支援数（希少種）（件）							指標名	生物多様性に関連する保全活動団体への支援数（外来種）（件）						
年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12	年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R12
値	0	5					10	値	1	1					10



指標名	富士山科学研究所内の環境情報センター利用者数(人/年)						
年度	基準R4	R6	R7	R8	R9	R10	目標R9
値	4,640	4,410					5,000

